

■ 2018年 第一回「今年のにほんごコンテスト」入賞一覧

	応募者名	方面	今年のにほんご	理由
1席	山崎 雅代	石川県内	ことほぐ『寿』	・言葉という祈りを捧げ、お祝い事を招き入れる。 古の時空間から「ことほぐ」気持ちは今後もずっと無くなる事なく生き続けていく言葉と信じてなりません。 母の喜寿祝いを山代温泉にてさせて頂きました。飾り包丁で『寿』の人参があり、言葉の美しさを含め、改めて職人さんの気持ちに感動を覚えました。 この言葉を使える日本人で良かったと思った1日でした。
2席	橋本 佐和子	加賀市内	一滴千山を潤す(いつてきせんざんをうるおす)	こつこつと毎日少しずつ積み重ねてゆくことの大切、継続することの大切さ、実行してゆくことの大切さを心に刻んでいます。
2席	牧野 啓子	加賀市内	雨過天晴(うかてんせい)	かつて夫の癌宣告を受け、失意の中にいた私を救ってくれた言葉です。当時12時間に及ぶ手術を受け、術後5ヶ月に渡る入院生活の中、私達を勇気づけてくれた一言でした。ある書道展で出会い、力強い筆裁きの作品に大いに惹かれしばらく書の前に立ち尽くしたり、美味しいものをお裾分けして下さったりと睡んでくださるからです。オリンピックも開かれる今年、多くの人が、むつむ心を大切にしていければと思います。
2席	河田 敦	北海道	むつむ	年明けに、新しい家族の柴犬「れん(れんの羊羹から命名)」を迎えました。家族の一員としてすっかりむつむんでいます。一方、山代の実家では、85歳を超えた母が一人暮らししています。母が住み慣れた地で暮らし続けられるのは、地域のみなさんが、総湯でお喋りしてくださったり、美味しいものをお裾分けしてくださったりと睡んでくださるからです。オリンピックも開かれる今年、多くの人が、むつむ心を大切にしていければと思います。
3席	伊藤 良美	東京都	しなやか	どんな状況に置かれても柔軟に対応し、人様に対して角が立たない態度をとれる…そんな「しなやか」な生き方をしたい
3席	荒木 一衣	埼玉県	たおやか	子供2人の受験もやっと終わるので、今年是我が身を振り返り、生まれ変わる年にしたいです。今まで子供(それも男子第一)に生活して来たので、身なりも言葉遣いも荒く、大らかではあるけれど何事もがさつに毎日を送って来た様に思います。今年身なりから女性らしく整え(時代に逆行してるかな?)、優雅な振る舞いで気持ちに余裕を持ち、新しいボランティア活動にも足を踏み入れるつもりです。
3席	北村 政樹	加賀市内		豪雪にも、激変する世界の状況に対しても、芯をしっかりと持ち、しかし柔軟に対応し、ささくれ立つ事なく、皆で力を合わせ、また力を分散し、美しい調べを奏でられる年となってほしい。
3席	阿部 理恵子	神奈川県	ああよかった	日々いろいろなことは起きますが、夜お風呂にはいってホッとして、「ああよかった」と思える毎日を過ごしたいと思います。難問を抱え忙しいながらもお家に帰ってこられたことにホッとして、困ったことが解決できてホッとして。もちろん、楽しいことばかりの日も。
3席	谷口 敦子	加賀市内	温泉のない、日本なんて。	山代温泉という土地で、五十音図が生まれた偶然を大切にしたいと思いました。そして、日本人が大好きな温泉が、もしなかったら…いやいや、なかったら大変でしょという気持ちをのせてみました。みんなで温泉に入りましょう。
3席	生徒応募	山代小学校	あそぼう	
3席	生徒応募	山代中学校	ゆらゆら	山代温泉に来た観光客たちが、温泉につかって「ゆらゆら」と、いやなことなどわすれて、楽しい思い出をこの山代温泉に残して、その楽しかった思い出を何年たっても忘れないでほしいと思ったからです。
3席	生徒応募	山代中学校	恩返し	母や友達や先生その他にも、たくさんの人に応援や悩みを聞いてもらったりそのアドバイスをしてもらったので去年もらったその恩を風呂掃除や、血洗いや、部活の成績などのきちんとした形で返したいです。去年は恩を返すチャンスはありましたが、そのチャンスを逃してしまっただけで、今年こそチャンスをまたつかんで返せたいなと思います。一気にでかいチャンス一回で返すのではなく、日頃から何かしてくれた時は、ありがとと言ったり、今までもらった分小さいことでもいいから、困っていたら助けることを頑張って恩を返したいと思います。
特別賞	加藤 周生	東京都	たべごしらえ	石牟礼道子さんの『たべごしらえ おままごと』という本に出てきた言葉ですが、良い言葉だなと思いました。季節に合わせて旬のものを「ああ、今年もこの季節が来たねえ」などと言ひながら家族みんなで「たべごしらえ」する風景は、ただ食べるだけの食事とは違った豊かさをふくんでいると思います。食事を適当に済ませてしまうことも多いですが、今年ではできるだけ丁寧に、「たべごしらえ」したいな、と思っています。
特別賞	加藤 弘道	東京都	先も立ち、我も立つ	江戸時代の石田梅岩の言葉。ビジネスの奥義を簡潔に示している。この順番が大事である。どうしても、「我」が先に来てしまいがちだ。商売は、そもそも、「人助け」のはずである。「自分の先」のお困りごとを解決すること、幸せになっていただくことだという気持ちが一番大切なことである。日常の中で、ともしも忘れがちであるが、まず、先が立ち、次に、我も立つ工夫をすると肝に銘じたい。
特別賞	金澤 百合座	東京都	父のように。	一昨年末に大好きな父がくも膜下出血という病気で倒れ、現在も入院生活が続いています。父が倒れてから今日まで、涙山思うことがありました。その中で、父の姿や思い出を心に残しておくには、どうすれば良いのか悩んでいました。高校一年生である私は、自分ながらに結論を出しました。それは父の分まで人生を楽しむ事、そして父のような素晴らしい人になる事。この二つは今年、そしてこれからの人生の目標にしていきたいです。
特別賞	山崎 くるみ	京都市	日々是気付	毎日当たり前の様に過ごして行くけどちょっとした事に気付く毎日でありたいと思っています。
特別賞	亀田 奈津美	加賀市内	もういいかより まあいいか	もういいと諦めるよりも、こうでなければと執着するよりも『まあいいか』と思うことで、広い心で自分も相手も追い詰めずに良い距離をたもてる言葉だから。人に限らず起こったことや、考え方に対してもこの言葉で穏やかに乗り越えることができるから。
特別賞	小澤 朋弘	埼玉県	良心は笑顔から	私生活の中でも笑顔はコミュニケーションの1つであるし、東京オリンピックを控えた日本全体が海外の方に対する対応や、コミュニケーションになればと思った。
特別賞	平尾 新太郎	埼玉県	結進	自分の中で一本の筋(結論)を決めて進むため。その道すがらできた人の輪を結んで広げていきたいから。
特別賞	菅原 よし江	埼玉県	"平和と温泉 同じだね!"	温泉につかると身も心もほっこりゆったり…縮こまっていたものが全部解放されます。平和の中でこそ、身も心も自由でいられるのです。温泉と平和は同じなのです!!
特別賞	山本 英子	加賀市内	健力発気	健康は全ての源 その身体から発する元気は世の中を幸せにする
特別賞	坂本 佳与子	埼玉県	ぐにやぐにやでいこう	今年、心と体をぐにやぐにやに柔軟にしていきたいです。常識や目に見えるものだけにとらわれずに、ぐにやぐにやと頭で柔軟に物事をとらえ、考えられる人になりたい。体もぐにやぐにやに柔軟にして、どこにでもフットワーク軽く出かけられて、何にでもチャレンジできる体作りをしたいと思います。

	応募者名	方面	今年のにほんご	理由
特別賞	納谷 典子	加賀市内	心がほっこり	先日駐車場で大雪で車がスリップして動かず困っていたところ、四台の車の運転手が降りてきて押してくれ動くことができ助かりました。みず知らずの人達が進んで助けてくれる優しさや思いやりがうれしくて心がほっこりあったかくなりました。ちょっとした心づかいや相手を思いやる気持ちを忘れていない日本人の精神で素敵だなとも思いました。温泉地を訪れる観光客の人達にもその精神を持って接していこうと思っています。
特別賞	山田 颯太	加賀市内	あといつぼ	あといつぼふみ出せば、いやなことからのがれられて、いいことがある。
特別賞	久保田 雅裕	加賀市内	身についたものは盗られん	これは亡き母が生前よく口にした言葉だった。財産や金品はいくら貯めても、人手に渡ることもあるが、自分の身についた能力は常に自分とともにある。母は貧しいうちの育ちで、中学しか出ていない。それでも、お茶や着付けを深く愛し、学び、多くのお弟子さんたちを持つまでにいたった。生まれたときに空っぽだった頭と体にいろいろなものを身に付けさせる。それが生きていくことの意義ではないかと思う。
特別賞	前田 恭子	加賀市内	気の毒な～	加賀市民は「ありがとう」「氣を使ってもらって申し訳ない」という良い意味で使いますが、全国的には「かわいそうに」とマイナスの意味でしか使わないようです。加賀地方独特の使い方であること、感謝の気持ちをストレートに表現しない日本人の奥ゆかしさが込められている言葉です。ぜひ後世に残すべき言葉だと思います。
特別賞	中道 亜子	加賀市内	きのどくなあ～	石川県独自の方言で、ありがとうの代わりに伝えられてきた言葉だと知りました。私は愛媛県出身でその言葉を加賀市に来て初めて知ってステキだと思この言葉にしました。
特別賞	れん 貴大	加賀市内	守破離	伝統を守るだけでは人は集まらないからその時代に合わせて決まりを破り新たなものを誕生させることばですが、伝統を守ることばかりに固執して新しい世代が田舎に来ず、歴史やルールにとらわれない都会ばかりに行く現状だからです。田舎も伝統にとらわれないような考え方を主流にしていくべきだと感じたからです。
特別賞	大寺 康夫	千葉県	ほんとうのことを学ぶ	昨今の日本の現状では、“うそ”が平気で飛び交っています。権力を傘に“うそ”を平気で喋る人、その“うそ”を聞き流してしまう人、様々です。怖いのは、その繰り返しによって、言葉の持つ本来の意味すらも忘れ、同時に、“ことば”が意味する行動との関係が壊れ始めていることです。“ことば”のほんとうの意味、そのことばの示す“行動”への責任をもう一度人々が取り戻すことを願う次第です。
特別賞	久保 加緒里	東京都	ゆるゆる、にこにこ	日本人は勤勉。それはいいところでもあるけれど、最近ちょっといきすぎでギスギスしている感がある。もう少しのんびり、笑顔で過ごせる国になるといい。日本語らしい「繰り返しのオノマトペ」で表現した
特別賞	久保田 雅裕	加賀市内	ことばを紡ぐ	人に話すことば、紙に記すことば、スマホで書くことば、全てのことばはただ吐き出すものであってはいけません。縦糸の知性と横糸の愛情を上手く絡めて、相手に届けてもらいたい。それがことばを紡ぐということ。
特別賞	笠原 ひろたか	加賀市内	たすけあおうぜ！	きょう年は、あまりたすけあうことをそんなにしていなかったから。ことはみすてないでたすけあえていけたいいなと思ったから今年のにほんごはたすけあおうぜ！にしました。
特別賞	法貴 琉華	加賀市内	太陽より輝く笑顔を！	輝く太陽よりも明るく輝く笑顔でいれば、いいと思ったからです。
特別賞	下村 一磨	神奈川県	働かざる者工夫を覚える	働かない人は働かないなり工夫を覚えるということのたとえ。考えた理由は、働かない人やホームレスの人に前を向いて生きてほしいし、今年、僕はゴロゴロしたくて、思いうかんだ。
特別賞	山田 純生	石川県内	おもいあい	「思いやり」という言葉は一方通行な印象なので…
特別賞	牧野 裕	加賀市内	愛しき日本 懐かしき平成	平成の年号は今年までで、来年5月から新年号と変わります。昭和と共に平成も終わろうとしています。様々な思いが懐かしく去っていきます。
特別賞	生徒応募	山代小学校	にっこにこの平成30年	
特別賞	生徒応募	勅使小学校	指切りげんまん	約束した事は守る。裏切らない。やり遂げる。
特別賞	生徒応募	山代中学校	花を咲かす	この言葉にした理由は、私は今受験生です。春に大きな花を咲かせたいのでこの言葉にしました。また、観光客で賑わい笑顔の花を咲かせるの他に、地域発展の花を咲かせると思いました。場ランティ活動をすれば、地域の方々に笑顔と幸せの花が咲くと思います。「花を咲かす」というのは、自分にとっての花を咲かせたり、相手の為に花を咲かせたりなど、色々な花を咲かせたいし、咲かせてほしいと思ったからです。この地域に幸せと笑顔の溢れる大きな花が満開に咲いている地域になってほしいという願いからこの「花を咲かす」という言葉にしました。
特別賞	生徒応募	山代中学校	加賀有善	加賀市には善意が有り、溢れているという意味。
特別賞	生徒応募	山代中学校	折り愛	今、ニュースで国どうしが対立したり、大人どうしがけんかをして事件になったり、というのをよく見ます。しかし、自分に悪いところはなかったのか、相手に自分がどう見えているのかを改めて考え、思いやりの心を持って互いにゆずり合うことで、それもおさまるのではないだろうか。僕も兄弟とけんかをよくしますが、今年が折り合いの心を持って、解決していこうと思います。
特別賞	生徒応募	山代中学校	はふはふ	私には、今年9歳になる妹がいます。妹はお家でできたのあったかいごはんを「はふはふ」と冷ましながら、ほっぺいっぱいにはお張って食べます。私は、そんな妹の姿を見るとほっこりしてとても幸せな気持ちになれます。妹のほっこりした姿を今年も見守りながら、ささやかな成長を一緒に感じていきたいです。